

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長氏名	松江 都志美	生徒指導主事氏名	永山 英治
-----	-------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『たて班掃除』**取組のねらい『6年生の自己有用感を高める』**

異年齢集団による「たて班掃除」の活動を通して、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。

とりわけ6年生が5年生以下の児童らを、「たて班掃除」の活動を通して評価し指導することで、6年生の自己有用感を高める。

取組の具体的内容『日常的な異年齢集団活動の設定』

生徒指導部で全校児童を80班にわけ、同じ組の担任で構成した組会を通して各班の構成員を吟味し、班構成を最適化し、校内に80箇所の掃除場所を設定した。

教職員が指導を担当する場所を適切に割り当て、問題行動をとることが予想される児童を担当する教職員を相性などに考慮し優先して決定した。

運営委員会（児童会）の主導により、たて班掃除のオリエンテーションの計画と運営を行った。

掃除の時間は、開始時に点呼し、10分間掃除を行った後、班毎に集合し、5分間で掃除の状況について自己評価する。各班の班長（6年生児童）が班員を指導し、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価する。毎週末に、班長はMVPを1名選定する。

美化委員会が主導し、毎月末に、各班の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、毎月児童朝会の時間に表彰する。

掃除場所は2ヶ月間固定する。

取組の課題・創意工夫 『意図的な肯定的評価（適切に計画的に褒める）』

各班の構成員の自尊感情を高めるために、教職員が肯定的な評価を意図的に計画的に行う。まず、評価する児童を決め、よく観察し、具体的な好ましい言動に対して適切なタイミングで周囲に分かるように価値付けしたキーワードで褒める。

また、6年生の自己有用感を高めるために、5年生以下の児童が、6年生に憧れを抱いたり、尊敬したりすることができるように6年生や他の班員に対する肯定的な言葉のかけ方を工夫した。

取組の成果（効果）『異年齢集団活動（たて班掃除）で6年生の自己有用感が高まる。』

同じ組の担任で構成した組会を組織し、協議する体制をとることで、各班構成を最適化できた。また、今後の縦割り班による多様な活動を展開する素地ができた。

担当する学年以外の児童を指導する機会を持つことで、他学年の児童の様子を知ることができ、児童理解が深まった。また、教職員が協力して全児童を指導しようとする機運が醸成されつつある。

問題行動をとることが予想される児童を担当する教職員を児童と教職員との相性や信頼関係の深さなどを考慮し優先して決定することで、問題行動をある程度予防する体制を整えることができた。

運営委員会（児童会）のメンバーに、たて班掃除の意義と目標を理解させる時間を十分に確保することで、児童が自主的な指導・判断に基づく集団活動が展開できるように援助することができた。その結果たて班掃除の全児童に対するオリエンテーションの計画と運営を運営委員会が主導し、運営委員会のメンバーが運営に対して成就感・充実感・満足感を持つことができたと考える。

掃除の時間には、まず10分間掃除を行った後、班毎に集合し、残り5分間で各班の掃除の取組につ

いて自己評価した。各班の班長（6年生児童）が班員を指導したり、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価したり、週末に、班長がMVPを1名選定したりすることで、班長の自己有用感を高める機会をつくることができた。

さらに、美化委員会が主導し、毎月末に、各班の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、毎月児童朝会の時間に表彰することで、美化委員会のメンバーの自己有用感を高めることができた。また、表彰を通して、児童らの掃除に対する意欲を高め、所属するたて班における豊かな人間関係の構築につながったと考える。

【運営委員会によるオリエンテーション】



【たて班掃除に対する感想（6年生児童）】

わたしの思う、たて班そうじに
おける6年生の役割は、2つあり
ます。
1つ目は、下級生を育てること
です。また自分も成長すること
です。例えば、1～5年生にたくさ
んおこるわりには、自分自身は、
たくさんしゃべってたりそうじ
をしないようであれば、6年生ら
しくもないし、6年生がリーダー
をする意味がないと思うからです。
2つ目は、違う学年とも、交流
を深めていくことです。同じ学年
と話すだけなら今のそうじのしか
たでも問題はないと思います。た
てわり班なりの交流のしめたがあ
ると思います。
この二つのことは、わたしは、
とても大事なことだと思います。
これを心かけることによつて、た
て班の意味が変わってくるのでは
ないでしょうか。

たて班掃除の意味が完璧に分かっていますね、とても楽しみです。

今後の展開『異年齢集団活動の多様化』

異年齢集団による「たて班」活動を多様に展開することで、さらに、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。6年生が5年生以下の児童を多様な「たて班」活動を通して評価し指導することで、6年生の自己有用感を日常的に高める機会を設定する。

他校へのアドバイス『活動を展開する際にはデメリットも丁寧に語る』

異年齢集団による掃除活動を計画し実施するまでに1学期間を費やした。既存の枠組が変化することに対して教職員に不安を与えたことが、その大きな要因と考える。

新規の活動を立ち上げるためには、デメリットについても丁寧に説明した上で、最終的にはメリットがデメリットを上回ることをしっかり語ることと、丁寧な根回しが大切だと改めて実感した。